

2017

Annual Report



フィリピン カオハガン島



Japan Dental Mission

NPO法人ジャパン デンタル ミッション

Contents

代表理事挨拶	1
活動地紹介	2
海外活動報告	4
ヴァヌアツ共和国タンナ島	4
フィリピン共和国カオハガン島	14
学術報告	23
国内活動報告	24
国際理解教育～2年間の学習を通じた子どもの変化	26
海外活動参加者感想文	29
2018年度 海外活動予定	34
ジャパン デンタル ミッションについて	35
協力者名簿	36
役員紹介	37



代表理事挨拶

代表理事 沢田 宗久

2018年度最初のヴァヌアツでの歯科医療奉仕活動は、ペンテコスト島から始まります。一昨年のヴァヌアツの保健省と教育省とのミーティングでタンナ島からペンテコスト島でのミッションを依頼されました。

1983年から始めたJDMの活動は、マレクラ島で17年間、タンナ島でも17年間のミッションでした。長年にわたり、慣れ親しんだタンナ島であり、友人も沢山できていて、去り難く思われましたが、2017年7月で最後のミッションとなりました。

現地で約一週間の滞在期間に、4~5校の小学校や幼稚園に口腔衛生の普及にまわり、多くの患者さんの治療に携わりました。今ではオーストラリアやカナダからの歯科医療チームも来るようになりましたが、現地の専門職(教師や看護師)に口腔衛生教育をしたり、子ども達に歯磨き指導をしたり、入れ歯を無償で作ったりしたチームはJDMだけでした。



2017年7月は治療チームと視察チームに分かれ、私と会員の古森氏の二人はペンテコスト島へ視察に行きました。ペンテコスト島はバンジージャンプ発祥の地として世界的に有名で、首都ポートヴィラの北部に位置し、丁度葉巻の様な形をした島で、周りはジャングルで覆われています、18人乗りの飛行機で約1時間かかり、草地の滑走路に降り立ちました。島民は約3万人で歯科医師はいません。

我々は北部・中部・南部の3か所の病院を車で移動して視察しましたが、デコボコ道に揺られていると、医療開拓者の気持ちになって、またここから新たにJDMの歴史が始まることを実感しました。

中部のメルシーシーの病院は他の所より比較的設備が整っていて保健省からは北部からも南部からも患者さんが集まりやすい為にここを拠点としてミッション行なって下さいと要望がありました。

治療チームは最後のタンナ島での診療でしたが、それぞれが精一杯ミッションを遂行し、数年ぶりに歯科技工士も参加し、入れ歯も作成できました。タンナ島からの機材は全て引き上げ、現地首都ポートヴィラの保健省にて保管しています。

2017年度のフィリピン・カオハガン島での活動は、例年通り11月と今年2月に行いました。11月はボランティアの参加者が多く、沢山の患者さんの診療ができました。2月は歯科技工士も参加し、台風2号の影響で毎日暴風雨が続き水浸しになりながら、周りの島々からの患者さんが少ないにもかかわらず、20床もの入れ歯を数日で完成することができ、島民に喜ばれました。

島の一人の少女が歯科医師を目指し、6年間大学で頑張り続けましたが、力及ばず島に帰ってきました。約6年間、有志の皆様の善意で集めて頂いた大切な寄付金を奨学金として使わせて頂きましたが、今後また別の形で島の未来ある子ども達の為の奨学金として使わせて頂きたいと思っておりますので、これからも皆様のご理解とご協力の程、宜しくお願い致します。

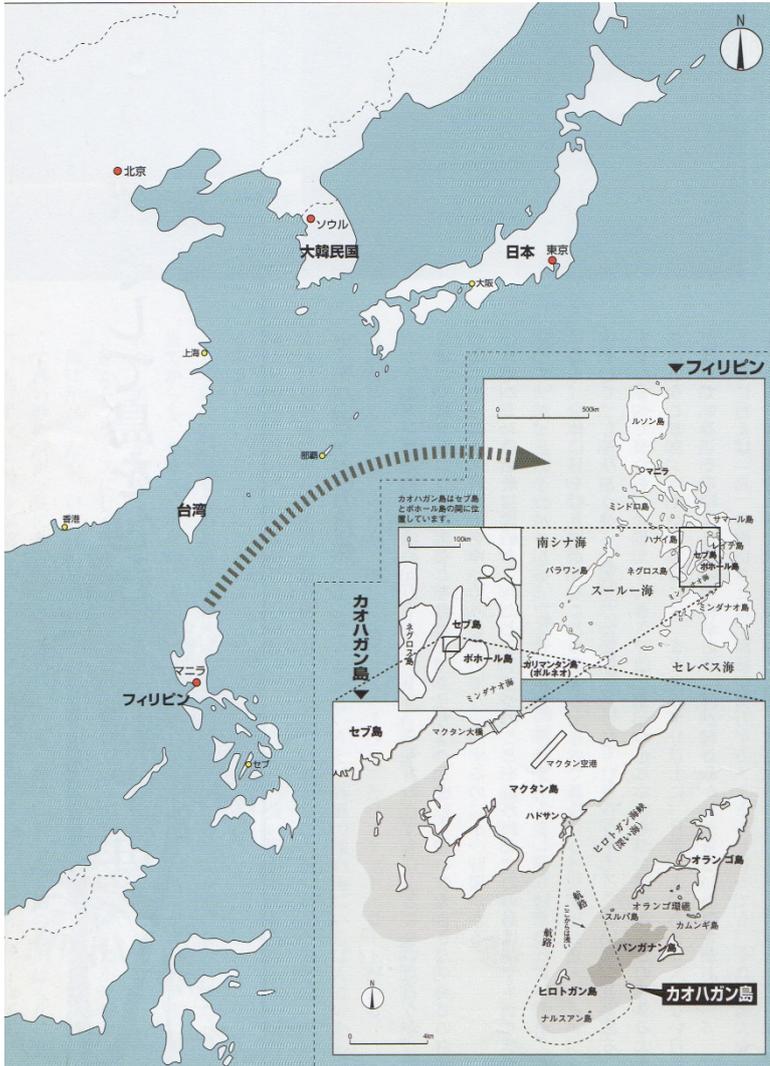


ヴァヌアツ共和国

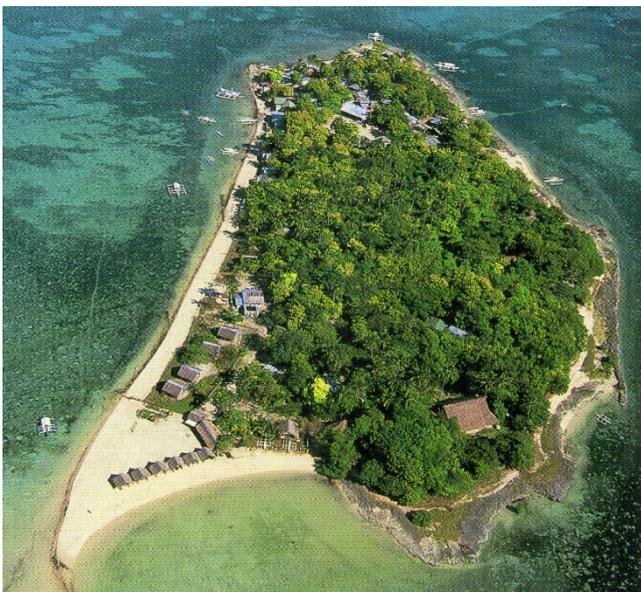


紹介：約83の島々から成り立つ
人口：約24万人
首都：ポートヴィラ（エファテ島）
言語：ビシュラマ語、英語、仏語
通貨単位：バツ（1バツ=約1円）
宗教：ほとんどがキリスト教
平均寿命：71歳
生産物：コプラ（ヤシ）、牛肉
活動地：ペンテコスト島

フィリピン共和国



- 紹介：7,109の島々から成り立つ
- 人口：約8,857万人
カオハガン島の人口は約450名
- 首都：マニラ（ルソン島）
- 言語：フィリピン語、英語、ビサヤ語
- 通貨単位：フィリピンペソ（1ペソ=約2.5円）
- 宗教：ほとんどがキリスト教
- 平均寿命：男65歳、女70歳
- 生産物：バナナ
- 活動地：カオハガン島



ヴァヌアツ共和国タンナ島

ヴァヌアツ共和国本隊活動報告書

2017年7月8日(土)～17日(月)



参加者(左から)

伊藤 玲 (歯科医師)
小西 あゆみ (歯科衛生士)
平野 文興 (歯科技工士)
関根 淳 (歯科医師)

タンナ島

7月8日

成田空港に集合、大阪からの荷物が出発する飛行機会社と別のターミナルに届いていたが、早めに集合したためピックアップして問題なくターミナルに移動した。ニューカレドニアに時刻通り到着し、1泊した。追加の荷物はエアカラン親会社のエールフランスから許可を得ていたためヴァヌアツまで追加料金なしで届いた。



9日

夕方の飛行機で予定通りヴァヌアツ入国、ポートビラ到着。保健省ローリー氏が我々を迎えてくれた。ヴァヌアツ国内線の荷物代を無料にするためにヴァヌアツ航空のマネージャーにリクエストしていたがまだ返事がないとの事。

10日

タンナ島へ。結局国内線の荷物代は無料にならなかったが、カウンター担当者に我々の活動の熱意が伝わり、大幅に値下げしてもらえた。空港では時間通りラナケルホスピタルより迎えのトラックが来ていた。飛行機が遅れたため、昼頃到着した。一度宿泊するロッジに荷物を置き、昼食をとり、病院へ向かうと、以前一緒に活動した病院の看護師ティミー氏が迎えてくれた。ラナケルハーバービュー小学校に立ち寄り今後の歯科検診と国際交流の予定を校長と相談し、とても歓迎された。校長より前回寄付された鉛筆はとても役に立って、余った鉛筆を他の小さな島の小学校と分けあってとても喜ばれたと感謝された。なお、校長は女性の校長に変わっていた。

病院ではいつも通り診療の準備をした。今回技工士が1名同行したため、病院の倉庫にて10年以上前の表記のあるJDMの箱をあけて、稼働するエンジンや咬合器の選別を行った。大部分の人工歯やレジンが劣化していた。



11日

朝、ラナケルハーバービュー小学校へ検診と国際文化交流へ。竹淵小学校からの折り紙を見て子供達はとても驚いていた。感謝の印として小学校の全員から国歌斉唱を頂いた。その後、食事と虫歯の関係を子供達に分かりやすく物語にした紙芝居を、今回初参加の技工士で、僧侶でもある平野氏から大変面白く朗読していただき、子供達も大受けしていた。翻訳はDr. 関根が担当した。歯磨きしないと何が起こるか理解してもらった後に歯科検診を行った。全校生徒数は308人、若干休みがいた。歯科検診の後、折り紙の折り方を5年生にレクチャー。皆初めての折り紙に苦戦するも、最初から形にできる生徒が多かった。



午前中の残り時間は少なかったが診療を開始、たくさんの患者さんが集まり、皆昼の時間が過ぎても働いた。デンチャー希望の患者も多く、平野氏と相談の上、義

歯の受付は本日のみとし、平野氏は残業して作業をした。

夜、宿舎に戻ると、偶然ロッジでヴァヌアツ共和国の大臣一行のミーティングがあった。何の大臣か尋ねると、国土大臣だとの事。Ikitiという村に病院が出来たため、セレモニーで来たとの事。



12日

朝9時から診療開始。Dr. 関根は最初ラナケル小学校で別の学年に折り紙のレクチャーをしてから診療となった。抜歯、スケーリング、充填中心に昼過ぎまで診療した。11時ごろ病院管理者代理のティミー氏より、タンナ島に厚生大臣が明日チャーター便で来るため我々の病院に保管している機材を一緒に運んでくれることとなった、と報告あり、急いで荷物をまとめた。現在診療中のため診療機材は送れない。昼食後、患者が少し減ったが、デンチャー希望の患者が多く、Dr. 伊藤と Dr. 関根で可能な限り即時義歯を製作して対応した。明日のIkitiクリニックオープンのため病院のトラックは終日忙しく、午後5時を過ぎても活動していた。我々の送迎が出来なくなったため、タンナ島で活動している京都大学防災研究所、気象・水象災害研究部門 耐風構造研究分野 特定研究院である中村逐彦氏が宿泊地まで送ってくれた。

13日

朝から診療。途切れることなく抜歯や充填が続いた。

10時ごろ厚生労働大臣の視察があった。今回はオーストラリアの支援によるクリニックの開業セミナー参加のためタンナ島に来ていたため、短い時間ではあったが、ラナケルホスピタルの歯科診療所を見学して頂き、これまでの活動に感謝の言葉を頂いた。本日も昼過ぎまで働き、先に帰国する Dr. 伊藤を見送った。



本日は午後も患者は途切れず、6時過ぎまで抜歯や充填、スケーリングを行った。本日も病院ドライバーの勤務時間を過ぎたため中村氏が宿舎まで送ってくれた。



14日
朝、ラナケル小学校から折り紙を受け取った。日本では見かけない折り紙もいくつか見受けられた。すぐに病院へ行き、診療を始めた。ドクター1人、衛生士1人であったが可能な限り診療した。技工はすでにセッ

トした患者の調整や研磨となった。お昼で診療を一旦終了とし、タンナ島在住の中村氏家族と昼食を共にした。その後、撤収作業を始めた。今回でJDMのタンナ島での活動は終了となるため、病院の倉庫で風雨にさらされ、稼働しなくなったエンジンや、劣化した人工歯などは廃棄した。以前JDMとロータリークラブで製作し、配り切れずに余っていたノートや下敷きが倉庫で痛んでいたが、部分的に綺麗なものもあったため、ラナケル小学校に寄付した。時間が少なかったが、これまでのJDMで使用した機材をまとめ、宿舎に戻った。



15日
朝、飛行場へ。タンナ島から撤収する荷物は多く、病院のトラックに乗せると我々が乗れなくなってしまうため、この日も中村氏家族が忙しい中、飛行場まで送ってくれた。12日に大臣のチャーターフライトに乗せたはずの4つの箱のうち3つと、壊れたエンジンがタンナ島空港でストップしていた。ちょうどポートビラより帰って来たティミー氏と会えたため、ビラに送るよう説明。しかし、本日の荷物もオーバーウェイトのため来週になるとの事。ポートビラに戻り、JJローリー氏の出迎えがあった。

荷物の後日ピックアップをお願いした。個人の荷物1つと日本で修理予定のエンジン、技工機材のみ無理や

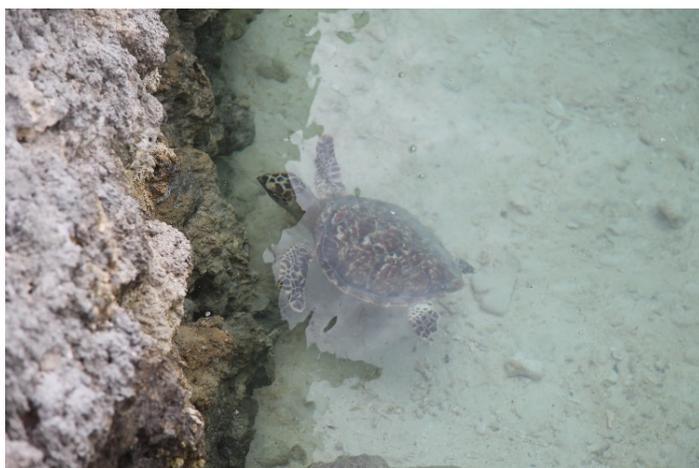
り頼み込んで乗せてもらったためこれらの荷物は確保できたが、残りの荷物はタンナ島でストップしたままとなった。



午後、ポートビラ、セントラルホスピタルに JICA 青年海外協力隊の鈴木氏と一緒に訪問。Dr. Maine が待機してくれていた。DT. 平野氏は僧侶でもあり、以前インドの寒村にて活動の傍ら、義歯製作のボランティアができないか模索していた。その活動が日本の新聞で紹介された際に、技工機材の寄付を受けたが、それらの機材がまだ残っており、ヴァヌアツ共和国セントラルホスピタルにて生かす事ができないかミーティングを行った。セントラルホスピタルには技工士が一人いるが、休暇中のため後日ヴァヌアツ訪問することを平野氏は検討中との事。

16日

今回メンバーが少なく、膨大な荷物整理や診療など、本日まで休む時間無く活動したが、帰りの飛行機まで時間があるため午前中はオフとなり、残ったメンバー3人でウミガメのいるビーチとメレフォールを散策した。



午後、タンナ島から後送りとなった荷物がちゃんと届いたか確認のため空港へ。ヴァヌアツ共和国国内線では荷物が予定どおり届かない事が良くある。タンナ島在住の中村氏は島民からの信頼が厚く、飛行場の荷物がポートビラ空港にちゃんと届く様、空港で現地職員に頼んでくれた。そのおかげで来週届く予定の荷物まで含め、全ての荷物が届いたことを確認、保健省ローリー氏のトラックに積載してから帰国する事ができた。



2017年7月 ヴァヌアツ・ペンテコスト島 視察報告

2017年7月6日(木)～14日(金)

2017年7月のヴァヌアツ共和国での歯科医療奉仕活動は、ペンテコスト島の調査と、タンナ島での診療でした。

前年度に現地保健省とのミーティング時にペンテコスト島での活動を依頼された為、7月6日～14日まで、沢田と生駒RCの古森さん、ポートビラのJICAメンバーの鈴木麻代さん(歯科衛生士)、保健省のラッセル(歯科医師)マクソン氏(現地コーディネーター)の5名で、ペンテコスト島まで調査に行きました。

ペンテコスト島には2つの飛行場がありますが、便は週に1便程度しか無く北部から調査をする為に、サント経由で行きましたが、サント島からペンテコスト島の便が急遽、前日に欠航が決まり、余儀なくチャーター便6人乗りのセスナ機でペンテコスト島に向かいました。

一方、タンナ島での歯科医療チームは8日～17日まで、関根(歯科医師)、伊藤(歯科医師)、平野(歯科技工士)、小西(歯科衛生士)の4名で活動しました。

以下はペンテコスト島視察チームの報告です。



古森淳一氏(左)と沢田宗久(右)

ポートビラ空港にて



7月6日(木)

先発隊の目的はペンテコスト島の調査で、古森氏と沢田の二人で関空を出発しました。

途中ニューカレドニア経由でヌメアに1泊しました。

7月7日(金)

時刻ヴァヌアツの首都ポートビラに到着しました。

7月8日（土）

朝、宿泊先のホテルにて保健省のメンバーとミーティングを行いました。

MOH担当の J I C A メンバー鈴木麻代様が同席し、現地語通訳して頂いたのが助かりました。



保健省とJDMのミーティング ポートビラにて

7月9日（日）

早朝、ペンテコスト行きフライトが欠航となった為6人乗りのエアータクシーをチャーターして、無事ペンテコスト・サラ空港に到着。



途中、天候が良かったのでパイロットの計らいで、アンバエ島の上空を旋回して頂き、火山の火口のカルデラ湖を観ることが出来ました。

空港からトラックに乗り、ジャングルの様なデコボコ道路を通り、約1時間かけて Abwatuntora Health Center（アブワツントラヘルスセンター）に到着後、コミュニティーによる歓迎を受け、セレモニーが開催されました。



病院内とゲストハウスを、ヘルスセンターの主要メンバー、コミュニティーチーフ、JDMでミーティングを行い、施設の確認と来年のJDMの活動について説明をしました。

関係者からは、是非このセンターで活動を行なって頂きたいとの強い要望がありました。

その後、次の訪問先の Melsisi Health Center（メルシーシヘルスセンター）に向けて出発。

又ジャングルのような山道を3時間かけて午後4時過ぎに到着。ビラでのミーティングの説明では1時間くらいで行けると聞いていましたが、やはり現実には厳しくヴァヌアツタイムを実感しました。

7月10日（月）

午前中ペンテコスト島中央地区のコミュニティーの代表が出席の元、歓迎セレモニーが開催され、JDMの活動の目的と内容を説明しました。その後、ヘルスセンター責任者ローレンス氏のガイドで病院内を視察し、ローレンスとメルシー小学校（フレンチスクール）校長ニコラスとJDMでミーティングを行いました。



午後からパンギに向けて出発途中、地元のフレンチ系の小学校とイングリッシュ系小学校を訪問しました。



途中、滝やキャプテンクックがヴァヌアツを発見した時に海岸壁の岩に刻んだ文字を観ながら約4時間かけてパンギに夕方5時頃、到着しました。

今後の活動の共通理解とメルシーに拠点を置いた場合の施設の利用場所について確認を行いました。その後、持参した歯ブラシ500本をメルシースクールに寄贈し、八尾市立竹淵小学校との文化交流の話もしました。



パンギに行く途中の滝
現地歯科医師 ラッセル
JICA衛生士 鈴木麻代氏
コーディネータ マクソン
古森氏と沢田

7月11日（火曜日）

午前中、ヘルスセンターのナース・スクールコミュニティメンバーが歓迎セレモニーを開催してくれ、ランチも準備され、パンギコミュニティの歓迎ムードを感じられました。



その後、学校とヘルスセンターを視察し、来年パンギに拠点を置いた場合の施設の利用場所などについて確認を行いました。地区教育長より、生徒やペンテコストの歯科事情について説明を受けました。

空港からの交通事情、ロケーションを考慮した結果、2018年のJDMの活動拠点をパンギに置く事を仮決定致しました。



7月12日（水曜日）

出発前にもう一度パンギの施設を視察し、地区教育長とコミュニティ代表同席の元で、会議を行いました。



コミュニティは2017年12月末までにJDM受け入れの為のゲストハウスを完成させる。JDMはそれを確認後、正式に活動拠点をヴァヌアツ・ペンテコスト島・パンギに決定し、保健省へ最終決定を報告します。その後、歯科用ポータブルチェアや寄付物資・歯科診療材料などをコンテナでパンギに船便で送付することを会議で決定致しました。

パンギからロノロレ空港に向かう途中、フレンチ系現地小学校を訪問し、校長先生に来年7月には歯科検診を行う予定であることを伝えました。学校の裏側を見ると、バンジージャンプのやぐらがそびえ立っていました。バンジージャンプは毎年5月、6月に成人式で行われます。今回は見る事ができませんでした。



▶バンジージャンプのやぐらを背景に

その後、空港に到着、飛行機が定刻より3時間遅れでしたが、無事に首都のポートビラに帰ることができました。



7月13日（木曜日）

午前中に保健省担当のローリー氏に会ってペンテコスト島の3か所アブワツトラ・メルシーシ・パンギを視察した結果を報告しました。

初めローリーは、メルシーシを希望していましたが、この三か所の中ではメルシーシの病院の設備が一番整っていて良かったけれど、空港からのアクセスが3時間かかるので、まずは、ペンテコストでの活動第一段階はJDMのメンバーが行きやすい空港から1時間で行けるパンギに決めて、徐々に北の方へ移動することが、望ましいと説明しました。

ローリーもそれについて納得し、了承して頂くことができましたので、来年からパンギで活動を行うこととなりました。



保健省のローリーと最後のミーティング

午後の便でニューカレドニアに向かいました。

7月14日（金曜日）

無事成田に帰国致しました

総評（2017、ペンテコスト・タンナ島）

代表理事 沢田 宗久

前年度に現地保健省とのミーティング時にペンテコスト島での活動を依頼されました。タンナ島よりもペンテコスト島の方が医療面で乏しい環境にあり、歯科医師が居ないのが現状であります。JDMとしては、タンナ島とペンテコスト島の両立はできません。タンナ島には、ティミーと言うセラピストが常駐し、この数年間、彼と私達と一緒に活動したことで、歯科予防のノウハウは彼に任せられると確信しました。

今年のペンテコスト島での調査は、北部のアブワツトラ・ヘルスセンター、中部のメルシーシーヘルスセンター、南部のパンギヘルスセンターの3か所で行いました。

メルシーシーの病院の設備が一番整って良かったのですが、空港からのアクセスが車で3時間かかるので、まずはペンテコストでの第一段階としてJDMのメンバーが動きやすい空港から1時間で行けるパンギに決定し、徐々に北へ活動を移動することが望ましいと考えました。

保健省のローリーと、話し合った結果、来年からパンギで活動することに決めました。

又、タンナ島での活動は今回の参加メンバーが関根、伊藤、平野歯科技工士、小西歯科衛生士の4名で少なかったにもかかわらず、歯科治療、デンチャー作成、学校検診、八尾市立竹淵小学校とハーバービュー小学校との折り紙による文化交流などを行いました。今回でタンナ島での活動は最後ですので、膨大な機材の在庫整理をしました。

現地の皆様の協力のおかげで、全ての機材の撤収ができ、無事にポートビラまで持って帰ることができました。

今年度で、16年間となるタンナ島での歯科医療ボランティア活動に終止符を打ちました。

来年度から又、新たにペンテコスト島へと移動します。JDMの活動はどんな土地に行っても不変です。JDMのメンバーは、自分の持てる力の限り困っている人々に手を差し伸べて一人一人が人間形成の場として、活動して行きます。

これからも、温かいご支援宜しくお願い致します。

2017年7月11～14日タンナ・ラナケルHP 診療内容

2017年7月	7月11日	7月12日	7月13日	7月14日	合計
抜歯	14	18	21	5	58
CR充填	1	3	8	5	17
スケーリング	3	8	7	2	20
チェックアップ	1	2	2	1	6
義歯 印象	4				4
義歯増歯	1				1
義歯 バイト		2			2
義歯 セット		1	4		4
口内炎粘膜治療			1		1
ブラッシング指導			1		1
投薬			1		1
義歯 調整				2	2
患者数	18人	21人	32人	11人	82人

7月11日ラナケル・ハーバービュー小学校歯科健診

280人健診する

小学生	241
先生	4
キンダークラス	35
合計	280



フィリピン共和国カオハガン島

2017年11月18日～11月23日

参加メンバー

(上段左から) 大森愛裕(D) 長谷川玲子(V) 垣内万智子(H) 工藤武男(ゲスト) 崎山克彦(オーナー)
中島ミラ(V) 中島勝彦(V)

(下段左から) 倉橋朋子(H) 島田風美歌(H) 菊島優香(H) 瀬野耕司(D) 沢田 宗久(D)
(D-歯科医師 H-衛生士 V-ボランティア)



活動内容

11月18日

関空組4人、成田組3人ほぼ時間通り19時頃にセブに

到着。空港で中島夫妻・エマさん・トッペルさんを合流しカオハガン島に21時頃着き食事、短めのミーティングし就寝。今回中島夫妻は移動時間22時間もかけて合流してくれた。



11月19日

メンバー全員でセッティングをしながら診療を行なう。Dr2人と少ない中で、DH・ボランティアが各自できることをした。

午前・午後共に長い行列ができていた。時間をオーバーして診療したが、それでも全員を診ることができなかった。

21時頃沢田代表が到着した。



11月20日

今日も朝から行列ができて午前に診れない方は、午後まで待ってもらって診療に。

午後、沢田代表と崎山さんはミーティング。

午後後半にボホールの遠くから来ているので診てほしいとのこと。15.6人どうしてもということで、午後もオーバーして診療した。



11月21日

早朝に沢田代表はミーティングのため崎山さんとセブへ。

DH 菊島が体調不良のため、カオハガンのよしえさん・エマさん・中島ミラさんが同行してセブの病院へ。

残りのメンバーで診療を行なう。フェスタの本祭と重なり、患者さんは前日に比べて少なかった。小学校校長代理が子供たちに集まるように声をかけた。数人来てくれたので小学校の健診も併行しながら診療を行なった。メンバー不足を補うようにV長谷川が歯磨き練習してくれた。





11月22日

小学校が再開したので、沢田代表・V 中島勝彦・DH 垣内・DH 島田・DH 菊島・V 長谷川が小学校で歯ブラシを渡し、赤染して歯磨き指導をした。
D 瀬野・D 大森・DH 倉橋・V 中島ミラは診療所で数人治療をしながら少しずつ撤収作業。
午後ほんの少しの自由時間を過ごし、夕方ポイントグで運動会。リレー・みのむし競争・玉入れ・綱引きなど行った。夕食後最終ミーティング。



11月23日

カオハガン島を3時30に出発、セブで解散し各自帰路に。

リーダー総括

今回は、歯科医3名、衛生士4名、総勢10名と比較的少人数での活動となりました。

しかし、メンバーそれぞれの頑張りもあり、診療がスムーズであった事は勿論ですが、ドネーションとそれに続くTBI、運動会と滞りなく終えることができたと思います。

今回もカオハガン以外の地域から多くの方が診療に訪れました。

このことはJDMが今まで長年培った信頼の証であると思います。

この活動中、体調を崩された方がいましたが、短時間の内に回復し予定通り活動できました。

そして全員無事帰国しました。

その際にはカオハガンハウスの皆様や島民にお世話になりました。

大変感謝しております。

経験が浅いリーダーを参加メンバーや国内のスタッフが支えてくれました。

そして、どうにかミッションが完遂できたと思っています。

有難うございました。

又、お会いできる日を楽しみにしています。

瀬野

データ

治療結果

	11/19	11/20	11/21	11/22	合計
抜歯	87本	204本	68本	45本	404本
充填	18本	46本	29本	5本	98本
シーラント		6本	3本		9本
SC	19人	33人	17人	4人	73人
TBI		1人	2人	1人	4人
チェックアップ	3人	3人	2人		8人
Dリペア			2床		2床
抜糸			1人		1人
受診者数	64人	112人	51人	15人	242人

島別	11/19	11/20	11/21	11/22	合計
カオハガン	12人	12人	18人	6人	48人
パンダノン	30人	49人	9人		88人
パガンアン	11人	16人	6人	4人	37人
クアミング	8人	12人			20人
アグス	3人				3人
セントルーザ		3人	5人	2人	10人
マンダウエ		4人			4人
カブルアン		11人			11人
マリゴンドン		1人	1人		2人
サンビンセンテ			2人	2人	4人
パゴットラン				1人	1人
カオハガン小学校		4人	10人		14人

2018年2月10日～2月15日

参加メンバー

(左から) 倉橋朋子(H) 伊藤晴夫(V) 山口香(H) 谷口真結子(D) 江原由美(V) 上崎秀美(D)
河内光明(T) 瀬野耕司(D) 沢田宗久(D) 工藤武男(ゲスト) 中辻孝一(T)

(D-歯科医師 H-衛生士 V-ボランティア)

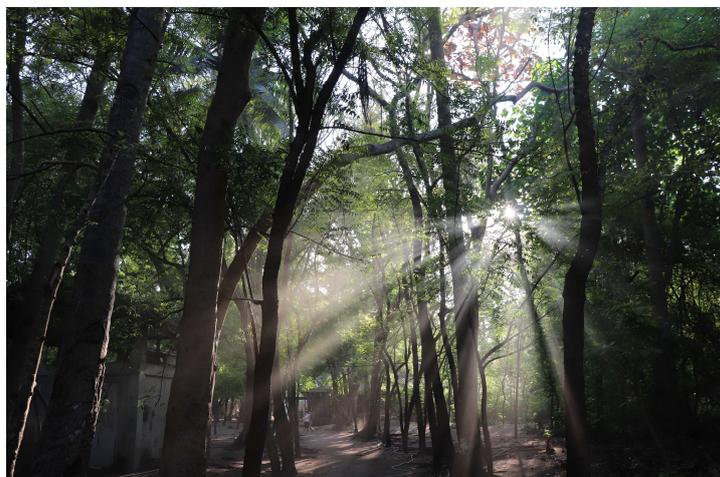


活動内容

2月10日(土曜日)

関西空港から6名、前乗り1名、東京から2名がセブ空港に集合し、車と船を乗り継いでカオハガンへ。

干潮で浅瀬を回避したためカオハガン着は23:55となった。遅い夕食をいただいて就寝となった。





2月12日（月曜日）

二日目には卒業式のため義歯作製を希望していた女子生徒の前歯の義歯を早くもセットとなった。技工士さん達の手際の良さに毎回驚嘆させられる。他方、こんな若者の義歯を見て落胆するのも毎回のことだ。

午後から小学校でドネーションを行い、その後小学校4, 5, 6年生が診療に訪れた。その頃より雲行きが怪しくなり降雨となった。屋外で義歯を作製していた技工士さんも屋内に避難。しかし、診療は予定通りに進んで行った。

夕方、ヒーナイヒーナイ café で宿泊客のライブが開催され、澤田先生、河内さん、崎山さんも自慢ののどを披露した。

2月11日（日曜日）

朝食時、今回は義歯作製が中心となる事と他の活動内容を確認した。

午前中には11人の義歯の患者の印象採得を行う。模型は技工士さんのもとへ送られ咬合床が続々と作られた。そして、午後には咬合採得が終了。

抜歯、CR、クリーニングなどの診療も滞りなく進行していった。滑り出しは順調。





2月13日（火曜日）

夜半過ぎから風雨が強くなった。海風を直接受けるロ
ッジに宿泊していた女性陣は怖い
思いをしたようだ。

午後から、低学年の小学生が訪れ、泣く子も少なから
ずいて一気に賑やかさが増した。

台風 2 号が近づいているため海が荒れ義歯をセット
する予定のパンダノンの患者がカオハガンに来ること
ができなくて、義歯のセットが翌日に延期。

台風はカオハガンに接近してセブ島を横断するとの
ことであり、風雨は依然として強いままであった。船が
出なくて足止めとなった宿泊客も。

夕食後、澤田先生が自慢のたこ焼きを JDM のメンバ
ーのみならず他の宿泊客にも振る舞った。絶品。



2月14日（水曜日）

台風は通過し雨は上がり海も穏やかになった。

カオハガンハウスのスタッフがパンダノンに連絡を
入れてくれたお陰で、診療開始の 9 時には義歯セット患
者が到着した。危惧された義歯セットも予定通り終了。

室内に入った雨と砂を子供たちが丁寧に掃除をして
くれた。感謝。

午後からは、恒例の運動会。定番のリレー、玉入れ、
綱引きに加えパン食い競争ならぬスナック菓子食い競
争と縄跳びを。綱引きでは中国人観光客の緊急参加があ
ったり、縄跳びは参加希望が多かったりと思いがけず盛
り上がった。



2月15日(木曜日)

帰国の日。

午前3時15分母屋に集合し、干潮のため膝上まで海に浸かりながら歩いて沖の船に乗り込んだ。来た時と同じように浅瀬を避け港へ。そして空港からそれぞれ帰国。また新しい目的地へ。

この時期の台風の到来という想定外のこともあったが、予約の患者プラスαの義歯をセットすることができ満足できる活動であったと思う。

皆様、お疲れさまでした。また島でお会いしましょう。



	2/11	2/12	2/13	2/14	合計
抜歯	84本	82本	55本	3本	224本
CR	25本	40本	16本	1本	82本
シーラント		22本	23本		45本
SC	21人	7人	12人		40人
TBI			2人	1人	3人
チェックアップ		19人	4人		23人
D印象	11人	1人			12人
Dリペア		3床	1床		4床
Dセット		2床	5床	14床	21床
T-FIX		1人			1人
研磨		1本			1本
OPEN			1人		1人
受診者数	70人	82人	61人	11人	224人

島別	2/11	2/12	2/13	2/14	合計
カオハガン	15人	10人	22人	5人	52人
パンダノン	38人	4人		4人	46人
パンガアン	3人	7人	3人	1人	14人
セントローサ	11人				11人
クアミング	3人				3人
コルドバ		1人			1人
カブルアン		3人			3人
日本人客		1人			1人
ギルトガン		5人			5人
小学校		51人	36人	1人	88人
	70人	82人	61人	11人	224人

リーダー総括

今回は、歯科医師4名、歯科技工士2名、歯科衛生士2名、ボランティア2名、10名でのミッションでした。技工がメイン13名25床にわたる診療、及び抜歯、充填、クリーニング等を4日間という日程の中でこなしてきました。予定どうり行かないのは、いつものことですが今回は、台風2号発生近隣の島からの3日目に予定していた義歯セットが来島できず4日目にもつれ込み全員悲壮感の漂うなか、粛々と装着がすすみ無事午前中に完遂できたことは、全員一致協力の賜物と思いました。

また、バランガイホールの雨漏り、浸水等今後の問題もありました。島のポントグの営業時間の延長もあり、その来島ゲストも巻き込んで運動会が盛り上がったことも今回の成果でしょうか

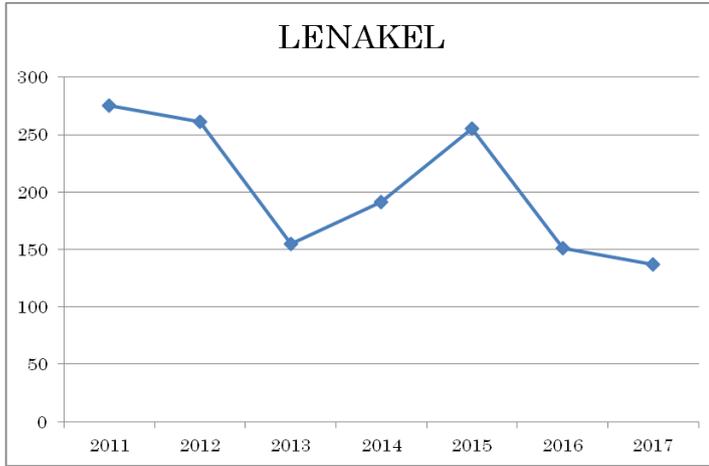
例のごとく参加者全員の協力により、成功裡にミッションを終えられたことを感謝し、今後も島民の口腔健康増進への模索を続けたいと思いました。

以上参加者、サポートしていただいた皆様に感謝しつつ総括を締めくくります。

上崎

ヴァヌアツ共和国タンナ島

富田 真仁

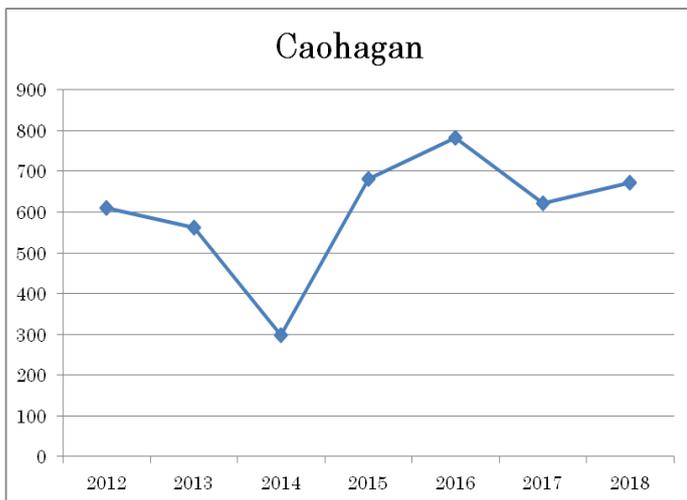


年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
合計 / DMF	275	261	155	191	255	151	137
合計 / D	269	248	146	187	246	142	123
合計 / M	3	13	6	2	8	7	12
合計 / F	3	0	3	2	1	2	2
検査人数	298	336	230	440	424	444	404
平均 : DMFT	0.9	0.8	0.7	0.4	0.6	0.3	0.3

ヴァヌアツ共和国の DMFT は 1.2 (1994 年) でう蝕の罹患が少ないです。口腔衛生教育が普及しているためではなく、平均所得が世界的に見ても低い甘味が手に入りやすい状態のためと考えられます。

JDM は10数年タンナ島にて活動しています。タンナ島の小学校の DMFT は 0.3 を維持しており、JDM の長年の活動の成果であると思われます。ヴァヌアツ共和国は83の島で構成されており、歯科ボランティア活動が行われている島は限られています。来年からはペンテコスト島にて新たな活動を行う予定です。

フィリピン共和国カオハガン島



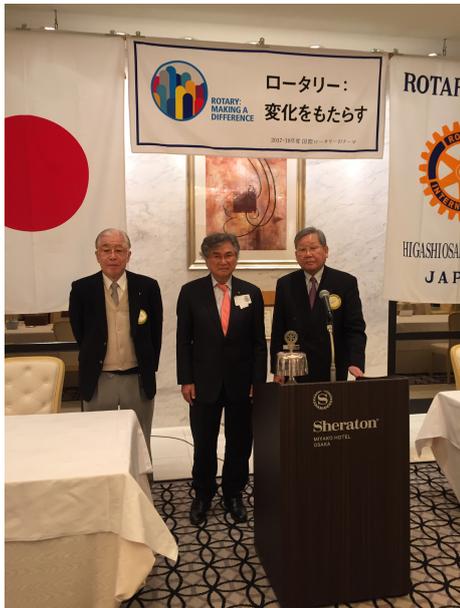
年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
合計 / DMF	610	562	298	681	782	621	672
合計 / D	339	429	256	552	708	541	599
合計 / M	93	22	9	93	25	10	26
合計 / F	178	111	33	36	49	70	47
検査人数	176	130	84	190	240	188	178
平均 :	3.5	4.3	3.5	3.6	3.3	3.3	3.8
DMFT							

フィリピン共和国の DMFT 4.4 (2003 年) は世界的にみても高い数値です。(参考 日本:DMFT 1.1, 2012 年) 近年フィリピン共和国の経済発展は著しく、島内の雑貨屋でも様々な甘味の販売を行っています。一方で、カオハガン島の DMFT は近年 3.5 前後を維持しており、フィリピン国内の平均より良好な数字ですが横ばいになっています。

フィリピン共和国の 6 歳児 DMFT 8.4 (2006 年) です。この数値は、12 歳児 DMFT 2.9 (2006 年) になると乳歯が脱落するため減少しますが、年齢とともに再上昇します。30 代後半になると DMFT 15.4 (1998 年) まで増加します。幼少期からの口腔衛生の啓蒙活動、フッ素塗布をさらに積極的に行っていく必要があると思います。

国内活動報告

日 付	内 容
2017年4月20日(木)	大阪天満橋ロータリークラブ 卓話 「ヴァヌアツ共和国での歯科医療奉仕活動について」 大阪ヒルトンホテル 担当：沢田
5月31日(水)	大阪フレンドロータリークラブ 卓話 「ヴァヌアツ共和国での歯科医療奉仕活動について」 日航ホテル 担当：沢田
6月21日(水)	八尾市立竹渚小学校 授業 5年生の3時間目 6年生の4時間目 「国際理解を深める為の授業」 担当：沢田・栗山
8月21日(月)	大阪船場ロータリークラブ 卓話 「ヴァヌアツ帰国報告」 日航ホテル 担当：沢田
11月15日(水)	八尾市立竹渚小学校 授業 5年生の3時間目 6年生の4時間目 「ヴァヌアツ共和国での医療奉仕活動を授業」 担当：沢田・栗山
2018年 1月29日(月)	東大阪中央ロータリークラブ 卓話 「国際奉仕活動にかける想い」 シェラトン都ホテル 担当：沢田
2月21日(水)	八尾市立竹渚小学校 授業 5年生の3時間目 6年生の4時間目 「フィリピン共和国・カオハガン島での医療奉仕活動を授業」 担当：沢田・栗山・溝畑
3月12日(月)	大阪船場ロータリークラブ 卓話 「フィリピン帰国報告」 日航ホテル 担当：沢田
3月16日(金)	八尾市立竹渚小学校 卒業式 出席 沢田・栗山・溝畑



国際理解教育～2年間の学習を通じた子どもの変化

八尾市立竹瀬小学校
教諭 神野 由佳里

1、はじめに

本校の6年生は2年間、沢田先生や栗山先生の協力のもとで「ヴァヌアツ学習」を行ってきた。年3回、学校を訪問してもらい、ヴァヌアツ共和国やフィリピン共和国での歯科医療ボランティア活動のお話を聞いた。ボランティア活動だけでなく、その国々の様子や、人々の生活についても写真を見ながら話をしてもらった。

2、学習をすすめるなかで

ヴァヌアツ学習は“子どもたちが生きる中で、大切なことを学んでほしい”という願いのもとスタートした。今年度は前年度の学習から、さらに子どもたちの考えを深めたり、子どもたちの心に響いたりするような内容をお願いした。

<1回目>

最初の学習までに、子どもたちはヴァヌアツの学校との交流内容について考えた。日本の遊びを知ってもらおうということで、百人一首やカルタ、将棋などといった意見がでた。“遊び方さえ教えたら、ヴァヌアツの子どもたちもきっと楽しく遊べるはずだ。あとは自分たちでも作れるから、この先もずっと遊んでもらえるだろう。”という考えである。沢田先生からは、文字があると難しいので、もっと簡単に作れるものがないのではというアドバイスをいただいた。そのことを子どもたちに伝えると、“自分たちは当たり前のように学校に通って勉強し、読み書きしたり、工作やスポーツをしたりしている。でも、それは恵まれたことなんだと感じた。”と話していた。子どもたちとの相談の結果、折り紙の作品を贈ろうということになった。プレゼントの中に、簡単な折り方の説明や見本を入れておいた。

6月21日（水）に1回目の授業が行われた。今回の授業はもう一度、JDMの活動や、前年度の学習のおさらいをすることとなった。

- | | | |
|---------|-------|--|
| 前年度学習内容 | (1学期) | ・ヴァヌアツ共和国の国旗について
・JDMの活動の目的や歴史、活動場所について
・ヴァヌアツやフィリピンの暮らしの様子や人々の様子
・自分たちとのちがいについて考える |
| | (2学期) | ・夏のボランティア活動の様子
・ボランティアに同行した小学生の作文
・JDMの活動の動画 |
| | (3学期) | ・JDMの活動の3本柱
・フィリピンでのボランティア活動の様子
・子どもたちのボランティア活動 |

ヴァヌアツをハリケーンが襲った写真や、歯の治療が手遅れになってしまった女性の写真など、子どもたちにとっても印象深いものが多かったようで、“見たなあ！”“あったあった！”などの声があがっていた。他にも、ヴァヌアツの文化であるバンジージャンプの様子の写真にも反応を示していた。歯科医療だけでなく、現地の文化も知ってほしいという思いがあったので、子どもたちから反応があったことは良かった。しかし、今回の学習でヴァヌ

アツとフィリピンの区別がついていない子どもがいることが分かった。そこで、2学期はヴァヌアツ、3学期はフィリピンと学習機会を別にして進めていこうということになった。

< 2回目 >

11月15日(水)に2回目の学習を行った。折り紙のお返しがヴァヌアツの子どもたちから届いており、“どんな物を折ったんだろう”とみんな興味深々だった。



(写真：ヴァヌアツの子どもたちの作品)

多かったのは、“やっこさん”や“パクパク”“紙飛行機”などである。教室に戻ってからの子どもたちのやりとりで、こんな会話があった。

「簡単に折れるやつばかりやん。」

「一年で折ったようなものばかりやな。」

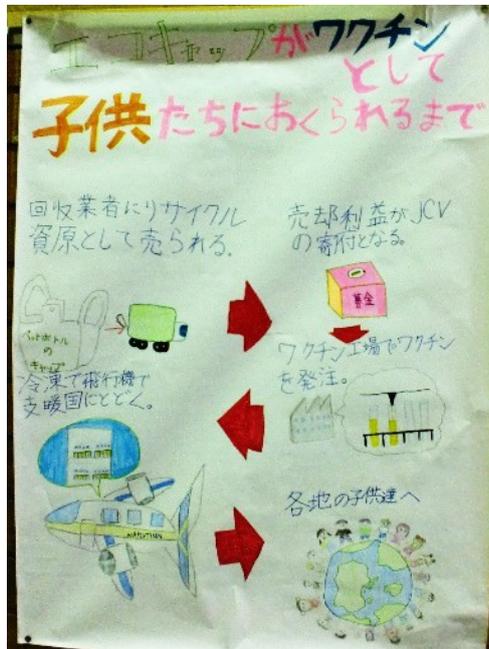
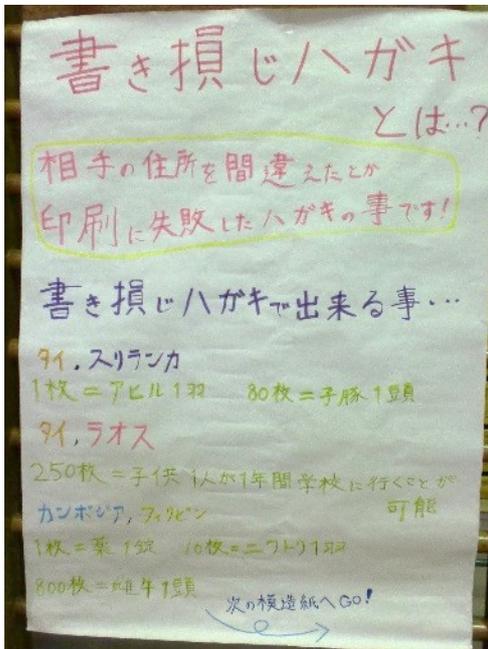
「折り紙とかなんちゃう？」

「たしかに折り紙とかなさそう。」

「ノートとかも足りんのやったら、折るだけの紙とか無さそうや。」

昨年度、不要な学用品を集めて贈った経験もあってか、折り紙からヴァヌアツの暮らしぶりに考えが至っていたことには驚いた。折り紙に書かれたメッセージを見て、何が書いてあるのかを調べたり、同じものを作ったりする子どももいた。直接言葉を交わしたわけでもなくとも、折り紙を通じた文化交流で、子どもたちは様々なことを感じ、考えたようである。

12月には本校で毎年、“竹渕小ワンワールド”(国際理解教育の発表会)が行われている。昨年度はヴァヌアツへの学用品ボランティアを行ったが、今回は、世界中の困っている人々のために自分たちにもできることを考え、それを学校全体に広めようというのである。インターネットで調べていると、ユニセフ募金や書き損じハガキ、ペットボトルキャップを集めるといった活動がでてきた。そこで今年度は、その3つの活動を6年生で分担して進めることにした。回収ボックスを作ったり、3学期になってからも集会で呼びかけたりしながら活動を続けていた。



(写真：子どもたちの発表の様子)

< 3回目 >

2月21日(水)が3回目の学習であった。今回はフィリピンでのボランティア活動についてのお話を聞いた。3学期に世界の国々の学習をしていたので、フィリピンの国の場所などは知っているようだった。最初はフィリピンの人々の生活の様子、そしてボランティア活動の様子、最後に質問タイムがあった。きれいな島国の写真に見とれたり、高床式の家や家畜の写真に興味を持ったり、子どもたちは昨年よりもフィリピンの様子に興味を持って聞いていた。

最後の質問タイムで、子どもから「ボランティアでうったえたいことは何ですか。」という質問が出た。先生方からは「上から目線でボランティアをするのではなく、自分たちはボランティアをさせてもらっている。世界には日本みたいに何でもある国ばかりではない。満身に病院がない地域もある。そんな地域では協力して、助け合うことが必要なんだ。困っている時にこそ、仲良く手を取り合っていこうということを伝えたい。」という答えが返ってきた。「ボランティアをしてあげている」「助けてあげている」少ないであろうが、そのように考えていた子どもたちも、先生の話で少し視野が広がったのではないだろうか。



3、おわりに

この2年間の学習で、ヴァヌアツやフィリピンのことを知るだけでなく、自分たちの生活と比べて考えたことも多かったようである。全ての子どもがこの学習を通じて大きく変化するのは難しいかもしれない。しかし、学習の機会を持つことで、少しでも広い視野を持つことができれば、「子どもたちが生きる中で、大切なことを学ぶ」ことにつながるのではないかと考える。

3月の卒業式では、「世界で活躍するための土台を青春時代に築きあげます。」という決意表明をした子どもがいた。ヴァヌアツ学習をした42人の子どもたちが、本当に世界で活躍できる人材に成長することを期待して、2年間の学習のしめくりにしたいと思う。

海外活動参加者感想文

菊島 優香（衛生士）

今回の JDM の参加は私の人生に大きな影響を与えました。私は"自分のライセンスを生かして海外でボランティアしたい!"という思いと、活動方針の一致した JDM を見つけ、今回参加に至りました。

活動では驚きの連続でした。日本は"予防歯科"が少しずつ浸透し、ようやくその成果が得られて来ています。1日3回歯を磨くこと、甘い物が齲蝕に繋がることなどの理解が深まり、歯の大切さや口腔内環境が重要視されるようになって来ました。そんな日本の歯科事情の中で今年4月歯科衛生士になったからか、カオハガンの島民の口腔内に想像以上の衝撃を受け、絶句しました。老若男女関係なく、口腔内は齲蝕や歯石だらけ。そして島民の望んでることは保存ではなく抜歯。日本では治療できる歯も抜歯せざるを得ない状況にあり、とても複雑な気持ちになりました。主にクリーニングを担当させて頂いた中で、ブラッシング方法など上手く伝えられない悔しさも感じました。

そんな良好とは言えない口腔内であっても、島の子供達の笑顔は本当に輝いてて、言葉が通じなくても名前を覚えてくれたりしながら、コミュニケーションを取ろうとしてくれる姿勢に、日本の子供達と変わらない純粋で素直な心を感じました。

これからの島民の口腔内を良くするには、ブラッシングだけではなく食生活の改善が必要であると考えられました。島で子供達に会うと、必ず持っているのはお菓子やジュース、アイス。歯ブラシを渡した後は、右手に歯ブラシ、左手にお菓子でした。学校での TBI を終えた後にもすぐにお菓子を食べ始めていました。この間食が口腔内に大きな影響を及ぼしていて、ブラッシングの大切さを十分にわかってても、この間食が継続される限り齲蝕の進行は止められないと思いました。この間食は今後の課題になってくると考えます。

そんな中でも 20 年前と比較し島民の口腔内は少しずつ、とても良くなって来ているとお聞きし、積み重ねの重要性と大変さ、そしてその素晴らしさを今回改めて実感することができました。これからも活動を継続することで、島民の口腔内が大きく変わって行くことを期待します。

今回の参加は私にとって、とても貴重で素晴らしい経験となりました。そして島民との出会いは一生の宝物です。これから日本でも JDM の基本理念である"かきくけこ"の「感謝」、「気配り」、「工夫」、「健康」、「行動力」と、沢田先生の"人の為が自分の為に"を忘れずに生活していきたいと思います。そして歯科衛生士として日本国民の口腔内環境を維持・改善して行きたいです。

最後になりましたが、崎山さんをはじめ、カオハガンハウスのスタッフの皆様、今回出会ったすべての方との出会いに心より感謝します。今回 6 日間共に活動した JDM の沢田先生をはじめ、瀬野先生、大森先生、中島さん、ミラさん、倉橋さん、垣内さん、長谷川さん、島田さん、初めての参加でご迷惑をお掛けすることもありましたが、皆様の心遣いに助けられながら無事終わることができました。本当にありがとうございました。そして JDM をお手



伝い頂いたエマさん、エッジ、トッペル、本当にありがとうございました。

また是非、参加させて頂きたいと思いますので、その際には今回のような最高のメンバーで、今回よりも JDM の役に立てるよう頑張ります。本当にありがとうございました！！

島田 風美歌（衛生士）



歯科衛生士として海外のボランティアに参加することが学生時代からの夢でした。

4年間ですが日本で学んだ歯科衛生士の経験を活かしたい、誰かの役に立ちたいという気持ちがあり今回参加しました。

現地での診療は必要最低限の機材、材料はありますが日本とは同じようにはいきません。

水も溜めた雨水を最小限で使わせてもらい、懐中電灯で口腔内を照らします。

さらに室内は暑いのでその場にいるだけで体力がなくなっていきます。

初めての環境で戸惑うことばかりでした。

その中で自分が何ができるのかどうしたいのか、

何をしにきたのかを考え直すこともできました。

私はカオハガン島の人たちに歯磨きの大切さ、歯磨きをきちんとすれば歯を失わずに済むかもしれないということを知って欲しかったので、拙い言葉でできる限り歯磨きの大切さそして滞在中に出来る口腔内のクリーニングを行いました。

覚悟はしていましたが、歯を抜く本数が年齢関係なく多すぎる。

日本では最近虫歯になる子供は減ってきていますが、環境によってこんなにも違うものなのかと目の前の現実に胸が痛みました。

多くの子供の乳歯がほぼ虫歯の状態。そのまま永久歯が生えても口の中の環境が変わらないのでまた永久歯が虫歯になり抜歯になる。

虫歯で痛くなった歯は抜けばいい。

子供はもちろん教育する親がそう思っているので頭を悩ます状況でした。

普段はきらきらした笑顔でいる子供たちも抜歯の話になると一瞬にして顔色を変えるほど抜歯を嫌います。

では抜歯しないためにはどうしたらいいのか。

虫歯をつくらない。

虫歯をつくらないようにするにはどうしたらいいのか。

歯磨きをしっかりする。

この理解を根深せていくことでさらに口腔内環境は変わってくるのではないかと思います。

今回の活動で歯磨きの大切さに気がついてくれたカオハガン島の方が1人でもいたら幸せです。

これからまた長い年月をかけて変わるべきことが良い方向へ変化していったらいいと思います。

この活動に出会えたこと、参加させていただけたことこの活動で出会った方々には感謝しております。

山口 香（衛生士）

歯科衛生士の資格をいかしてボランティア活動をしたと思って探していたらネットでこのプロジェクトを見つけました。

到着後マクタン島からカオハガン島までの船でとても綺麗な星空が見えてワクワクがより一層ましてきました。

コケコココーで目覚めコテージの窓を開けると綺麗な海が広がっていました。

それが2日目の夜中から台風が。

コテージが揺れ、雨まで中に。

夜中に新しい方のコテージに移動しました。他のメンバーの方が心配してくれて夜中見に来てくれたりお世話になりました。

台風で吹き荒れた日は診療所も水びたし。

それを島民の方や子供たちが一生懸命床を拭いてくれるのをみて心を打たれました。

島民の皆様や子供たちと言葉がもっと話せたらコミュニケーションがとれたのになど悔やまれます。

そして、私が1番印象に残ったのは入れ歯を作ってセットした時の笑顔！！

初めての入れ歯にもかかわらずキャンディーをボリボリ食べてました。

とても喜んでおられてその笑顔に私までとても嬉しく思いました。

初めての参加なので何もわからない私に先輩衛生士のともさんが丁寧に教えてくださり安心しました。

他のJDMのメンバーの方々も本当に優しくして、一生懸命活動されてる姿をみて尊敬しました。

35年という長い期間活動をされてるという事、続ける事の大切さをみにしみて感じさせられました。

貴重な活動にこの度一緒に参加させて頂いて本当にありがとうございました。



谷口 真結子（歯科医師）



学生の頃から海外でのボランティア活動に興味があり、ご縁があって今回初めて参加させていただきました。

どんな感じかというお話は伺っていたものの、実際にその場に行き自分の目で見るとやはり日本とは大きく違うことに驚きました。

それぞれ違う環境や価値観で生活しており、歯科においても日本とは違う問題点があり、少しでも口腔内の状態を改善できたらとまた崩壊する前に何が

できることはないかと思うと同時に自分の知識や経験の乏しさを感じました。日本では遭遇することのないような状況にとっても考えさせられ、いろいろな世界を見ることの大切さを実感しました。

今回の活動に参加でき大変貴重な経験ができたことに沢田先生をはじめ JDM メンバーの皆様に大変感謝致します。ご縁を大切にしながら、ぜひまたこの活動に参加したいと思います。ありがとうございました。

平野 文興（歯科技工士）



楽しかった。良かった。とのひと言で 総括できそうです。

でも、島へ渡る時、出来れば 少人数乗りの小さな飛行機に乗ってみたかった。(笑) タンナ島での技工作業は 限られた器材と時間のなかでは その作業が効率的に進まず 時間に追われ ある種の拘りをしなければ、もう少し作業も早く進んだのかもしれませんが、一期一会の仕事、不十分ながらも ある程度 納得のいく仕事をしておきたい という思いがあって、多くの方々の入れ歯を作って欲しいという希望に対し、止むを得ずお断りする というのは 心苦しいものでした。

しかし、希望を叶えてあげられた方の 喜ぶ顔、感謝の笑顔に接すれば、頑張っただけ良かったと思います。過去経験してきた知恵と工夫が要求され 役立った気がします。

今回もそれらに加えて更に改めて新しい経験が加わり、何ごとも経験する事で知恵と工夫が増していくもの。私にとって まさしくありがたい事でした。

特に若い技工士の皆様にはこの様な経験を沢山して欲しいものと思います。

そして、経験を積んで来た年配の技工士の皆様には、過去 積み重ねて来た技術をこの様な場所で大いに活かしていくことが出来るのではないのでしょうか。

たくさんの歯科技工士の参加が望ましいと思った次第です。

70歳の今日、人生の多くを過ごしてくると、自分の存在が 己だけの力では無く、数多くのはかり知れない人々のお陰で存在している、ということに 改めて気づかされます。

人生の終盤になって私は このように 数知れない多くの人々のおかげで成り立ってきている今日を どの様にして恩返しをして人生のけじめをつけて行ったら良いだろうか？との思いに突き動かされています。

そして、やがてやって来る 最後の時も やはり多くの人々のお世話にならねばなりません。

その時のためにも 人生のカウントダウンが始まっている今日、何が出来るのかを考えて生き、そして逝きたいものと思っています。

今回の活動に関し、この様な機会を与えて下さった全ての皆様に 「ありがとうございました」との感謝の言葉を申し上げます。

江原 由美 (ボランティア)

この度、ボランティアとして参加致しました。

大阪に戻った今は違う世界での出来事のように感じられます。

ありのままの自然の中、私も自然な気持ちで活動していました。

印象に残っているのは現地の子供たちの笑顔と限られた時間の中で最善を尽くすメンバーの方々の姿です！

その一員として活動できた事を誇りに思います。



最後に澤田先生から伺った言葉を記します。

ギブアンドギブ

JDM メンバーも現地の方々から与えられている

私の中にも何かが与えられました。

育んでいきたいと思います。

2018年度 海外活動予定

参加のジャンルは、歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士、一般ボランティアとなっております。現地でのお仕事（活動）は、医療活動に限らず多種多様ですので、どなた様でもご参加可能です。

皆様のご参加をお待ちしております。

参加申し込みは当会ウェブサイトからお願いします。

<http://www.japandentalmission.org>

ヴァヌアツ共和国

チーム名	日程	締切日
7月ペンテコスト島	2018年7月12日～20日	2018年6月20日

フィリピン共和国

チーム名	日程	締切日
11月カオハガン島	2018年11月21日～25日	2018年10月20日
3月カオハガン島	2019年3月19日～24日	2019年1月25日

参加費用

ヴァヌアツ共和国

フィリピン共和国

科目	金額	金額
航空運賃*1	約25万円	約8万円
滞在費	現地滞在費、一部JDM負担	
海外旅行傷害保険代	希望者のみ各自負担	
ユニフォーム代*2	3千円	3千円
合計	約26万円	約9万円

*1：航空運賃は、時期により変動します

*2：持っていない方のみ

ジャパン デンタル ミッションについて

Year	沿革
1982	歯科医の沢田が理事を務めていた社団法人南太平洋協会を通じてヴァヌアツ共和国の事を知る
1983	眼科医の岩崎氏と共に“ヴァヌアツに医療を送る会”に歯科医師として沢田が、ヴァヌアツ共和国で活動を開始
・ ・ ・	沢田は、一人で活動を続けていたが、現地の人たちの口腔内の機能回復を目的として歯科技工士に同行してもらい、歯科衛生士や一般のボランティアへと参加者層が広がり参加者が増えてくる事となる。
1995	活動内容の拡大のため「NGO南太平洋に歯科医療を育てる会」を設立
1996	フィリピン共和国カオハガン島のオーナーである崎山克彦氏からの依頼を受け、カオハガン島での歯科医療活動を開始
	ヴァヌアツ共和国に年2回、フィリピン共和国に年2回の活動を継続している。
2003	組織をNPOとし、名称を「NPO法人ジャパン デンタル ミッション」に変更
2004	ヴァヌアツ共和国保健省とJDMの現地における歯科医療サービスについて合意、調印を結ぶ。
	現在に至る

ジャパン デンタル ミッション活動方針

1. 歯科医療活動

●ヴァヌアツ共和国における歯科医療活動

ペンテコスト島において、中心となる病院を拠点として診療活動を行っています。

また、病院の周辺の小・中学校に行き、歯科検診及びブラッシング指導を行っています。

●フィリピン共和国における歯科医療活動

カオハガン島において、簡易診療所を中心に診療活動を行っています。

島内にあるカオハガン幼稚園・小学校に歯科医師・歯科衛生士・ボランティアのチームで歯科検診並びにブラッシング指導や染め出しを行い、歯の磨き方を指導しています。

2. 文化交流活動

●絵画などの交換

ヴァヌアツ共和国、フィリピン共和国の両国に日本から画用紙や絵の具、クレパスを寄贈し、子供たちに絵を描いてもらいます。その絵を日本に持ち帰り絵画展を様々な所で行っています。

また、白地の鯉のぼり、凧、羽子板などに日本とヴァヌアツの子供たちが絵を描き、交換しました。

その他、日本の伝統的文化を基に交流を行っています。

3. 生活向上活動（派遣国の生活のQOLがより向上するための活動）

●文房具、スポーツ用品の寄贈

歯ブラシ、文房具、スポーツ用品などの寄贈も行い、現地の子供たちの識字率の向上、学業支援や健康促進を考えています。

●運動会の開催

フィリピン共和国カオハガン島において、島民たちとのふれあいの意味も込めてJDMスタッフと一緒に運動会を行っています。

4. 青少年育成

精神的に問題を抱えた人達に海外活動に参加してもらい、生きることへの活力を養うためのキッカケ作りをするお手伝いをしています。

協力者名簿

- ・ (株)アド・ダイセン
- ・ アベ・ラベリング(株)
- ・ オーエム歯材(株)
- ・ 大阪歯科大学 口腔衛生科
- ・ 大阪市立開平小学校
- ・ 大阪市立昭和中学校
- ・ 大阪市立高津小学校
- ・ 大阪市立玉造小学校
- ・ 大阪市立中央小学校
- ・ 大阪市立中大江小学校
- ・ 大阪市立南大江小学校
- ・ 大阪市立南小学校
- ・ 大阪船場ロータリークラブ
- ・ 大阪南太平洋協会
- ・ 大阪府歯科医師会
- ・ 尾崎歯材(株)
- ・ 川西市歯科医師会
- ・ 関西国際交流団体
- ・ 関西学院中学部
- ・ 清原(株)
- ・ 共栄社化学(株)
- ・ クリエイト(株)
- ・ グラクソ・スミスクライン(株)
- ・ 国際ソロプチミスト大阪-梅田
- ・ コクヨ S&T(株)
- ・ サクラクレパス(株)
- ・ 沢井製薬(株)
- ・ 笹野電線(株)
- ・ 澤田歯科
- ・ サンスター(株)
- ・ (株)システムつう
- ・ デンタルプロ(株)
- ・ シンク(株)
- ・ 甚田会計事務所
- ・ スポーツネットワークジャパン
- ・ 住之江歯科医師会
- ・ スモカ歯磨(株)
- ・ セイコーエプソン(株)労働組合
- ・ セキセイ(株)
- ・ 全日本ブラシ工業協同組合
- ・ 大日本除虫菊(株)
- ・ 大平工業(株)
- ・ 太洋旅行(株)
- ・ 嶽北歯科
- ・ タナベスポーツ(株)
- ・ 株式会社ツサカ
- ・ つるや(株)
- ・ トキワ(株)
- ・ 有限会社トリビ
- ・ ナカガワ(株)
- ・ 南総工業(株)
- ・ 西澤歯科医院
- ・ ニッタハウス(株)
- ・ 日本歯科医師会生涯研究課
- ・ 根来(株)
- ・ 白水貿易(株)
- ・ ハグルマ封筒(株)
- ・ (有)ハマダデンタルサプライ
- ・ (株)林
- ・ 樋口歯科医院
- ・ 平田歯科医院
- ・ 不二印刷(株)
- ・ ヘリテック・アイコニックス・ベンチャーズ(株)
- ・ 蛍印刷(株)
- ・ モリタ(株)
- ・ 八尾市立西山本小学校
- ・ 八尾ロータリークラブ
- ・ 八千代オート(株)
- ・ 山貴産業(株)
- ・ ユー・エフ・オー(株)
- ・ 陽春園(株)
- ・ 吉竹歯科医院
- ・ DENTRADE
- ・ Greenpath Corporation
- ・ JICAヴァヌアツ支所
- ・ NPOセンター
- ・ TKX(株)
- ・ UHA味覚糖(株)

本年度ご寄付を頂いた皆様 (敬称略)

- ・阿部 香織
- ・伊豆 周久
- ・江原 由美
- ・大阪船場ロータリークラブ
- ・大西 尚子
- ・岡野 秀章
- ・斧原 周子
- ・斧原 秀夫
- ・梶岡 之誠
- ・片岡 清夫
- ・金本 裕光
- ・川田 昌美
- ・木村 キヨ子
- ・工藤 武男
- ・五味 アキオ
- ・佐々木 孝子
- ・佐藤 道子
- ・佐野 文子
- ・澤田歯科
- ・新川 晃生
- ・鈴木 勝俊
- ・田中 輝男
- ・椿原 良憲
- ・中原 道朗
- ・鳴田 さつ紀
- ・新潟 鈴子
- ・西村 知子
- ・西村 文延
- ・丹羽 汀子
- ・枚岡 人志
- ・藤本 茂子
- ・溝畑 史子
- ・宮崎 キミ子
- ・守下 雅美
- ・森田 順子
- ・森本 ふみ子
- ・渡邊 信江

役員紹介

代表理事

沢田 宗久 澤田歯科 院長（歯科医師）

副代表理事

栗山 雅行 ベリテック・アイニックス・ベンチャーズ[®](株) 代表取締役（ボランティア）

理 事

河内 光明 澤田歯科 （歯科技工士）

上崎 秀美 （歯科医師）

田中 良明 上り口歯科医院（歯科技工士）

小西 あゆみ （歯科衛生士）

吉井 照子 （ボランティア）

富田 真仁 富田まひと歯科 院長（歯科医師）

島 猛 上り口歯科医院（歯科技工士）

今村 ちひろ （歯科医師）

倉橋 朋子 塩井歯科医院（歯科衛生士）

監 事

甚田 隆康 甚田総合会計事務所 所長

北野 克己 株式会社北野商店 代表取締役



2018年6月9日発行 発行者：NPO 法人ジャパン デンタル ミッション

〒542-0085 大阪市中央区心斎橋筋 1-5-28 心斎橋コアビル 澤田歯科内

TEL : 06-6252-0118

URL : <http://www.japandentalmission.org> E-mail : info@japandentalmission.org

*本書の一部または全部を無断で複製、転載引用することを堅く禁じます。

ヴァヌアツ タンナ島